

---

○ロイコボリン錠 [内], ○ロイコボリン注 [注]

---

【重要度】 【一般製剤名】ロイコボリンカルシウム (U) leucovorin calcium 【分類】抗葉酸代謝拮抗剤

【単位】○5mg/錠, ▼3mg/A

【常用量】添付文書参照

【用法】添付文書参照

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【特徴】葉酸代謝拮抗剤 (メトトレキサート) の毒性を軽減するために用いられる。還元型葉酸であり、葉酸になるときに dihydrofolate reductase による還元を必要としないので葉酸拮抗剤によるこの酵素の阻害による影響を受けない。腎 OAT-K1 と OAT-K2 を介した MTX の排出を促進している (Takeuchi A, et al: Kidney Int 60:1058-1068,2001)

【主な副作用・毒性】ショック, 過敏症

【モニターすべき項目】クレアチンクリアランス、血清クレアチニン濃度、血清メソトレキサート濃度、尿 pH

【吸収】食事により吸収率が低下するため、食事の前後 1hr には投与しない (1)

【tmax】静注で 5min、その時の Cmax は 3548ng/ml。活性型葉酸は静注で 1hr (1) 0.71hr (筋注)、Cmax は USPDI を参照 (U)

【代謝】肝;ほとんどが活性代謝物の 5-methyltetrahydrofolate になる。静注では 66%、筋注では 72%が代謝される。経口では腸粘膜でも代謝され 90%以上が代謝されることになる (U)

【排泄】腎排泄率 80~90% (U) 糞便中に 5~8%回収 (U)

【CL】76.14mL/min [iv] (1)

【t1/2】5hr (1) 活性型葉酸 2.5hr (1) 6.2hr [血清中還元型葉酸が 1/2 に消失する時間] (U) 45min (11)

【蛋白結合率】73% (11)

【Vd】34.8L/man (1,6) 血液膜間門を通過する。肝に高濃度に分布 (U) 14L/man (11)

【MW】602

【透析性】蛋白結合率が高く分布容積が大きいため、効率的には除去できないと思われる (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】TDM の対象にならない【O/W 係数】資料なし (1)

【効果発現時間】10~20min (筋注)、5min 以内 (静注)

【効果持続時間】3~6hr

【更新日】20170415

---

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。